

政治意識の研究(I)

——政党支持別にみた人生観の社会的性格類型について——

久 松 昌 範

Masanori HISAMATSU : A STUDY OF POLITICAL ATTITUDES (I)
—— TYPES OF SOCIAL CHARACTERS IN EACH UPHOLDERS OF
JAPANESE POLITICAL PARTIES

I 問 題

政治意識研究の一環として、日本に於ける各政党の支持層が、いかなる人生観（広い意味での「社会的性格」）をもつかを探索することが本研究の目的である。

日本人の政治的性格（広義の「社会的性格」）をいくつかの類型にわけて考える研究の代表的なものには、日高（1960），塩原（1962），田中（1964），鮎戸（1965）などの研究がある。

日高（1960）は、歴史的、社会的な形成過程から、「庶民的」「臣民的」「市民的」「大衆的」「人民的」の5つの性格型を基本的なものと考えた。

塩原（1962）は「庶民的指向」「市民的指向」「大衆的指向」「前衛的指向」の4つの類型をあげている。

田中（1964）は、日高、塩原に類似の5つの基本型を用いて、自民党員、革新党員、創価学会信者、労働学校生徒、進歩派学生、カソリック信者、高校生の各集団に態度調査を行ない、「革新系集団ほどその態度構造には論理的整序が行なわれ、いわゆるイデオロギー的因子とよべるものがみられるのに対して、保守系集団の態度構造には論理的連関性が少なく、イデオロギーとよべるものはみられないであろう」という仮説を因子分析によって検討している。

鮎戸（1965）は、「保守——革新」「関心——無関心」「革新批判——保守批判」の3つの次元を組合わせた類型を、多次元解析から導き出している。

一方、政党支持態度を中心に政治意識を分析しようとする研究には、牧田、林、育藤（1959）池内（1960）、山本、久松（1965）、加留部（1966）、三宅、木下、間場（1967）などの研究がある。

これら2つの流れを統合的に考えようとする筆者は、現実の政党支持と「社会的性格」の基本的要素である「人生観」との関係を、日高（1960）、塩原（1962）の類型を参考にしながら探索しようとするものである。

II 方法と手続き

被験者は島根大学学生400名。学部、学年、男女がなるべくかたよらないよう考慮しながら、任意に授業時間を選んで、筆者の管理のもとに質問紙による調査が実施された。調査は1967年2月と7月の2回行なわれた。質問紙は無記名で、真面目な回答がよせられるよう配慮され、記入に要する時間は1時間前後で、本報告の分析に用いられるQ15、Q16、Q33を入れて、合計33項目の政治意識に関する質問から構成されている。回答不備を除いて実際に分析に用いられたのは、361名でその内訳は「表I」のとおりである。

支持政党はQ15「ところで、あなたの支持政党は何党ですか（自民党、社会党、民社党、公明党、共産党、その他、支持政党なし、わからない）」の回答によって決められた。ここで、はっきり5つの政党のいずれかであると答えた人数は146名（42%）であった。

（註 1967年6月20日付の島根大学新聞の調査報告によれば「一貫した支持政党があるか」の質問に「ある」と回答したのは31%であった。「一貫した」という質問の強さによって更にパーセンテージが低くなったと考えられるが、それにしても、過半数がはっきりした支持政党をもたないという現象は注目に値する。なお、無作為抽出によって行なわれた新聞部のこの調査報告では、支持なし（69%）自民党（9%）、社会党（11%）、民社党（2%）公明党（2%）、共産党（6%）その他（1%）であった。）

そこで、Q16「（支持政党なし、わからない、を選んだ人に）強いていえば何党に近いですか。（自民党系、社会党系、民社党系、公明党系、共産党系）」という質問の回答で支持政党系が決められた。この質問で、なお支持政党（系）がない、或いは、はっきりしないものは約8%（30名）であった。

人生観はQ33「現在の世の中で価値ある立派な生き方とはどのような生き方だと思いますか。日頃考えているまを自由に書いてください。」の自由記述による回答を分析し、各支持政党に特徴的なパターンを、できるだけナマのままに出そうと試みた。本研究では、パターン別の数量的分析はなされず、質的特徴の抽出にもっぱら重点がおかれた。

〔表1〕 分析に用いられた政党支持別の人数

支持政党	性別	人数	百分率 (%)	百分率 (%)	支持政党	性別	人数	百分率 (%)	百分率 (%)
自民党	男	30	11	28	社会党	男	48	20	40
	女	10				女	24		
自民党系	男	32	17		社会党系	男	37	19	
	女	30				女	33		
民社党		14	4	13	共産党		17	5	8
民社党系		32	9		共産党系		13	4	
公明党		3	1	3	支持なし	男	15	8	8
公明党系		8	2			女	15		
					計		361	100%	100%

III 各政党支持層の人生観

自 民 党 (男)

「信念、主義、目標などを貫いて生きること」という自己を中心とした一般的、抽象的な道徳律を強調する人生観の流れが、まず目につく。例えば、

「自分の信念を一生まげずに生きて行く。しかし、他人に害になるようなことはいけない。」

「なにか自分なりの理想、目標を持ち、それに向かって努力してゆく。」

「自分の好きな仕事にうちこむ。」などである。

次に、いわゆる「大衆的」「小市民的」な生き方が特徴的である。例えば、

(註 ここで「小市民」とは、高度の資本主義社会における、資本、賃労働両階級の間層としての「小市民」を意味する。また「大衆的」「庶民的」「市民的」「前衛的」等の意味は、日高(1960)、塩原(1962)の定義にもとづいて用いられている。なお、引用文はすべて、原文のままである。)

「……持っている才能をふるに発揮できる職業について、たとえ社会的な名誉、地位には縁遠くとも、一生のんびりとくらしたい。」

「自分の家族が十分にやしなっていける職業につき中庸な態度をとりつつ生きぬいて行く。」

「一番立派な生き方は、人間文化発展のために貢献できる生き方だと思いますが、それには人並の生き方あるいは才能をもっては不可能に近いと思う。したがって、凡人は、そこまでは出来ないが、他人に迷惑をかけない生活をし、各人の次の世代に自分のそのような夢の実現を託せばよい。(しかし、子供にそれを強いてはいけない。所詮、凡人の子供は凡人であろうから。そこで、凡人の価値あり立派な生き方としては、自分の生活を楽しみ立派な思い出多きものにし、この世に生れてしみじみよかったと思うようになればよいと思う。宇宙の生命からみれば、人間の生涯なんて、ほんの一瞬にすぎないから、苦行するよりも楽しい暮らしをすれば人間を創造された神も笑まれるであろうと思います。)

一般的、抽象的道徳律が現実と直面して、どのような性格パターンに変型するかは別として、上記、二つの人生観が、自民党(男)支持者に特に多くみられた。

その他には、「どうせやるなら、でっかく生きろ、これが価値ある生活であり、生き方だ!」という**巨人主義的**人生観、親孝行、仏教思想を強調する「庶民的」性格をもつパターンなどがみられた。例えば、

「親に孝行を尽くし、自分を現在まで立派にしてくださったことを感謝して、親に絶対に孝行を尽くすことだと思う。世の中の万物を愛せるような人間になる様に、日頃から心掛けて生活をする事が、立派な生き方と思う。思いやりの心をもって生きること。万物に感謝の気持ちを持って生きること。」

自 民 党 (女)

自己中心の一般的、抽象的な道徳律を強調するものが過半数あった。自民党男子と較べて「自分」を強調しているのが女子に特徴的である。数例をあげれば、

「自分は実際に生きているのだということを感じとって、自分の思うままに勇気を持って生

きてゆくということである。…」

「エゴイズムにかたまらず、自由に人間と人間とのぶつかりあいのなかに、自分の信念をつらぬき通す生き方。」

「道徳の許す範囲内で自由に行動し、常に自己の意見、考えを持ち、毎日を只前進あるのみという態度で過していく。そして自分の使命に忠実でまじめに責任をもって果していく。」

「もし私が教師になって社会に出たならば、強く正しく生きて行きたいと思います。」

続いて、自己中心の「大衆的」「小市民的」生き方が現われる。

「自分が一番大切だけれど、人の身にもなってみる必要がある。」

「……所詮、大きい事の出来ない人間だから、その日、その日を忠実に暮りたい。」

上記、二つの流れが、自民党支持の女子から抽出された。

自民党系(男)

非常に協調的な「小市民的」「大衆的」な生き方が主な傾向であるが、その他にも種々雑多な人生観がみられるのも特徴的である。「小市民的」人生観の例として次のようなものがある。

「現在をのりきるためには、自分自身が大志をいだいて、どうこうということより（実際それを成し遂げるには、すこし世の中がふく雑すぎる）世の状況にまかせ、それをうまくのりこなすことであると思う。事実、そういう人が大多数を占めると思う。」

「社会と妥協できる生き方、自分で満足できる生き方」「最も平凡に生きること」

第2にはこれも自民党(男・女)支持に共通にみられた個人的道徳律を強調したものがある。

「自分が決めた目的に対してできるだけそれに近づくために努力し、その努力がむくいられてなくてもそれに少しでも近づいたなら、それがもっともすばらしいもの。」

「自分を最大限に生かせる道にすすむこと。」

「行動の動機が人に勝たたいという欲望によって支配されるのではなくて、あくまで自分自身の内面的欲求によって自分自身の精神生活を充実させていく生き方。常に行動の目標が環境に支配されるのではなくて自分を高め充実させていく方向に向かっていく精神主義。」

「最近、現代に生きるということは、いろいろな面でむずかしいことだと思いはじめた。例えば、交際術にしても然りである。そして何事でもつきつめて考えればくだらぬこととなってしまふ。即ち、勉強するにしてもこの結果はどうなるのかと考えると、唯、飯を食う材料でしかない様に思われてくる。従って何事にも興味を失いがちになる。ところで、思うには、自分の能力を出来る限り発揮した点において満足を得る、即ち自己の完成に努めることが人生における最も大切なことだと考えるようになった。そのためには多面に興味をもち、経験、知識を豊かにすることであると思う。」

最後の例には、現実的、市民的な生き方に失望し、倫理主義、個人主義への移行がみられる。

第3には理想主義的な例がある。

「自分の望む研究が（人類を飛躍的に進歩させるような研究が）一生のうちに一つでもできたなら。」

第4には悲観主義的な例もみられる。

「きれいな心の持主、教養があり、人格者であり、そしてお互いに人格を尊重しあっていたら、人間がどのように生活したら平和に、そして価値ある生涯が送れるかわかるはずでしょう。ところがそんなことはいっておれない現在（過去も同じ）非常に悲しくなってきました。」

第5には次の例に典型的にみられるように、非系統的信条を列挙するものがある。

「1）自主性を持って、世間の雑事にわずらわされない。2）世の中から逃避的にならず、現実をしっかりと見つめて生きる。3）自分の信念は強く貫いて生きる。決して悔いは残さぬ様に。4）世間には絶対迷惑をかけるべきではない。5）現在アメリカが行なっているような殺人行為に対しては、断り反対する。（政治的なことは知らぬが、罪もない住民が、あの様に殺害されるべきではない。）」

その他「わからない」「白紙のまま」のものも、かなりみられた。

自民党系(女)

第1には、協調的な「小市民的」「大衆的」生き方を強調する流れがあり、第2には、一般的、抽象的な道徳律を主張する流れがある。これらは2つとも、自民党支持の男女に共通にみられるものである。例えば、

「豊かな人間性を身につけ、味のある人生を送れること。」

「常に最大の努力を払い、いかなる場合にも、自分を見失うことなく、困難にうち勝って行く勇気をもって生きる。」

「自己に忠実である。一つの信念をもち、それを最後までやり抜く、道徳的精神を持ち続けていく。」などである。

ここで興味があるのは、第2の道徳律の流れが、第1の大衆的生き方に抵抗なく融合してゆく例がみられることである。即ち、

「自分の信念の思うままに自由に、そして、自分に対してきびしくあたって行く生き方。人間、いろいろな生き方があるが、自分なりにしっかりした根本の考え方があれば、少々誤りを犯しても立派にその後を処理すればよいと思う。変に自分を誇示するのではなく、自然に自分から出てくるものがあってよい。理想像をかかげるのもよいが、自分なりに身分相応にふるまうのが、いちばん美德に思える。」

「派手な生き方、つまり、社会的地位が上であるような人の生き方ではなくて、人のあまり目につかないところでも、自分の仕事を忠実に根気よくやりつづけているような人の生き方に共鳴する。まあ平凡に生きることがもっとも大切なことではないかと思う。平凡ということはボンクラにすむすということでは決していない。絶えず一つの信念をもって、自分の道をまっすぐに進むことだと思う。」

一般的、抽象的な道徳律の人生観は、「大衆的性格」をおびた人生観へと流れうることが、ここに実例で示されたわけである。

次に、第3の流れとして、「市民的性格」をもつ人生観があるが、これが、また、第2の道

徳律の流れとともに、「大衆的」性格をおびた人生観へと融合していくところが特徴的である。例えば、

「他人に迷惑をかけぬかぎり又、それが自分自身に恥じぬ事であるかぎり、自分のやりたい事をやるべきだ。しかし、それは、社会人となったなら、社会に役立つ何らかの仕事をも含まねばならぬ。自分が、1人の独立した人間として、誰にもれい属せず、又、誰をも、れい属させず、自分の幸福をもとめて努力する。その努力により、自分の人格を高め、幸福をつかみとる。そういう生き方を私はしたい。(私には、そういう生き方が価値ある立派な生き方と思う。)」

第4の流れとしては、小市民的な生き方を拒否し、**社会のために貢献する**という人生観で「**前衛的**」指向に通じるものである。次の例が、その典型である。

「自己が社会のために貢献できる人。たとえ女性であっても何らかの形で社会のため、世の人々のために貢献できるような人になることが私の理想である。又、自己の生き方として、自己と社会につながりを持ちながらも一時期、断絶できるだけの「個」を確立していく事、換言すれば主体性のある人になるよう努力し、常に自分を成長させ教育できるような生き方を理想とする。そして歴史の古さと新しさ、生活の古さと新しさをしっかり見極め常に判断しながら人生に対する勇氣と忍耐をもてる生き方を尊重する。」

「とかく、自分本位になりがちな今日、人に知られず、世の中に貢献している人達の姿を見ると頭が下がる思いがする。又、自分の体の不自由なものにもかかわらず、そういう人達のためにと頑張っておられる人。ただ、自分だけの平和、ちっぽけな幸福の中にとじこもって、周囲をふり返らない生き方には反対である。1人でも多くの人に幸福を分けてあげようとする生き方は立派だと思う。」

民 社 党

社会改良的の視点を持ちながら、又は、「市民的」「大衆的」生き方を退けながら、結局は「信念をつらぬく」ことを強調する**抽象的道德律**が主流をなす人生観が特徴的である。例えば、

「まず第一に自分自身を見失わないこと。現在、我々の周囲はめまぐるしくうつり変わり、いろいろさまざまなレジャーや、くだらん娯楽もあるが自分さえしっかりしていたら何をやってもよいと思う。青年の立場からいえば、価値ある青春とは、できるだけ多くのことを吸収し体験し、政治に対する批判力、現代の社会問題(物価、交通問題)などに個人としての判断力、批判力を養わねばならぬ。そのために日頃から、それらの事に関して無関心でなく、たえず関心を持ち、現代の社会を少しでもよくするために、自分は一体どうしたほうがよいのか常に問題として考えたい。次に角度を変えてみると、日頃思うことは、常に何かに情熱を燃やして生きている人を価値ある生き方だと思う。つまり情性でなく常に前進のある人生を送っている人を。」

「自分の信念に基づいて(その信念がどのようなものであれ)種々の事によって座折することなく生き抜くことであり、世の風潮に染まって人並みの平凡な幸福ということに満足しないで、自分の良心、信念を実現することである。」

その他、折衷的人生観の一例としては「キリスト教、社会主義、デモクラシー、この3つが一つに溶けあって、自分自身の観念を形成しているとしたら、それは理想的な生き方だと思う。」がある。

女性でも「自己完成、自己の信念をつらぬく」という抽象的道德律が主流をなし、それが「小市民的性格」や「大衆的性格」と融合した人生観が特徴的である。例えば、

「自分の心に従い、他人に流されることなく生きる。そのためにいつも自己を反省する。いくら自己に忠実であるといえ、決して人に害を与えることがあってはならない。物事をいいかげんにするのではなく、一度決心したことは最後まで自分の力の及ぶまで努力して見る。また自己の権利を主張するばかりでなく、必ず主張できるだけの人間としての条件を備えていなければならない。たとえ、どのような結果になろうとも、自己に忠実であり、世間、他人に気をつかうような生き方は賛成できない。」

「ぼろは身につけていても、ある自分なりの目的を持って、喜怒哀楽に身をまかせながらも、人生のでこぼこ道を歩いていく。良き友を見つけ、人間愛にめざめ、孤独にひたる時もあり、読書し、人格をみがき、人からは無視されても、大きな望みを胸にいただき、今に見ておれ、という意気込みとともに、あまり背のびせず、誠実に生きぬく。人に対しては、思いやりを持ち、自己に対してはきびしく、目標に向かって努力する。しかし思うように行かない時は大いに泣きくやしがる。とにかく、どのような逆境におかれようと、その中で光を見つけるべく、やりぬく人。」

民 社 党 系

男女とも、一般的、抽象的な道德律を強調した人生観が主流をなし、民社党支持の女子にみられた「大衆的性格」との融合類型も散見された。即ち、

「自己の本分に没頭する」「好きな道で頑張る」「自己完成」を強調するもの。「信念をもって、自分の責任で………」「純粹さをとおして生きる。」などが典型である。

また、男子に、「世間で認められて、世界にその名をとどろかすこと。」という 巨人主義の一例があった。

第2の特徴的な流れとしては、自己の立場を広く社会との関連でとらえようとする生き方であり、これらは、人道主義的であり、「大衆的性格」を帯びている。例えば次の例がその典型である。

「世界的な視野を持ち、イデオロギー、宗教にとらわれず、人間の生を尊び、人類に対して愛を持ち、現在の立場を認識して、着実に歩む生き方。」

「人それぞれに、皆、なんらかの意味で価値を持っていると思う。例えば、社会の表面には出ないけれど、ただの家庭の主婦であっても、社会の一員であり、小さな家庭でも、大きな力を持っている。だから、自分の立場で真剣に考えて生活すれば、立派な一生涯をおくれると思う。」

第3の流れとして、抽象的観念的ではあるが、社会に貢献することを強調する人生観がある。

次にその例をあげる。

「自分の出来る範囲で、世の中に貢献すること。」

「人に出来る事を人の前でもなんのこだわりもなく出来る人でありたい。世の中の先頭に立って働きたいと思う人は案外多いと思うが、今は、その下で、縁の下の力持ちとなって、世の中に尽くそうと思う人は少ないように感じる。むしろ、平凡ながらそのような生き方をする人に共感する者である。」

「自己を信じ、他を信じ正しい勇気を持って、自己の向上と、社会の向上に貢献する。自己の利益のみをはからず、社会全体のために働く。」

公明党(系)

「自己の信念に従って歩む」に代表される**抽象的な道徳律**を強調する人生観が主流である。例えば、

「自己の目的に向って努力する課程に於て、色々な事を深く経験し、内、外から自分を幅のある人間に築きあげていく。」

第2の流れは、第1の道徳律による自己充実の後、**観念的**ではあるが、**社会に貢献**しようとする人生観である。例えば、

「現実をみつめ、まず、自分自身の事を充実させ、自分自身を確立した上で、その周囲の事をも開拓していこうとする生き方。」

「誠実で理性と教養があり利己主義では決してなく、人の為に尽し、社会にその人が必要であると思われるような人になるような生き方。」

「素直に明るく、強く生きる事が必要だと思う。自分の能力の限界内において、自分で深く考え、それに従って生きるべきだと思う。能力の限界内において、少しでも社会に役立つ事をする。」

第3の流れは、**道徳律**と**社会への貢献**が**共存**している人生観である。

「今頃、社会と個人の問題について迷わされているが、両方共よく考えて、それを自分のものにして生きるということだと思う。実際、私達の年代には片方におちいり易い。そして意見がくいちがい、お互いに相手を非難し合っている。人間が生きていく上で、私は何か2つの方向がある様に思う。1つは、社会発展のために自分の問題は犠牲にして運動している人。もう1つは、自己の問題(例えば、自分の熱中できるもの——芸術)に没頭して生きる人。とかく両者は意見がくいちがうと思うが、お互いに相手の立場を理解し尊重し合い、認め合って生きることが大切だと思う。自分の意見が絶対だと思い、それを主張することにより、相手の気持を傷つけたりする様な人は1人でも少なくなって欲しい。」

第4の流れとして「**大衆的性格**」をもつ人生観がみられる。例えば

「価値あるかどうかはわからないが、自分だけで、平凡に文学関係の研究でもして暮したいと思う。」

社会党(男)

まず第1に主流をなす人生観は、やはり、**個人主義的**でかつ、**一般的抽象的な道徳律**を強調するものである。即ち、

「目標、信念をもって前進すること。」

「意志を貫く生き方。」

「自分のやりたいこと（好きなこと）をどんな苦勞にもまげずやること。」

「自分の才能を十分に發揮すること。」などが代表的なものである。

第2の流れとしては、「**小市民的**」「**大衆的**」**性格**をもつ人生観がある。一例をあげれば、
「日々、誠実に仕事に務め、よき家庭人であり、あまり目だたなくても、社会に少しでも役立つ人として生活していくこと。」

第3の流れは、**個人的道徳律**或いは、**個人的幸福**と**社会への貢献**を共存、統一させようとする人生観がみられることである。例えば、

「1) 男と生まれた以上、何らかの社会に対する貢献をすること。2) 自分の信念を堅持し他人の意志に濫りに動かされない生き方をする。3) 現代のホワイトカラー族のように、単に家庭生活のみを大事にする事なしに、進んで社会改良運動に参加すること。4) もし将来、教師になるなら、真に人格のそなわった社会人育成に自己の全生涯をささげるような生き方。5) 政治に無関心又は無関心を装い、政府のいいなりに動かされた戦前の人々に対して、特にインテリ連中に、非常な憎悪を感じる。だから、積極的にそれに関心を持ち、単に政府のいいなりになるような行動を止め、真にだれもが安心できる社会をつくるよう、微力たりとも尽力するような生き方。」

「我々は社会に貢献する人間であるとともに、自分自身の幸福を摺む人間とならねばならない。自分自身のささやかな幸福のみを追求し、自己満足してはならない。そこで、まず、自分自身の修養に励み人間的に一步でも完成されるよう努める、そして身につけられたものを今度は社会に過去の恩返しとしても、又社会文化前進のためにも、社会化していくことである。そこで初めて、個人は認められ、生きていく意味があると思う。」

次に第4の流れとして観念的ではあるが**社会改良**を強調する人生観がある。即ち、

「青年らしい大きな夢をもって強く進んでいかなければならないと思う。そして、瞬間瞬間をむだにしないように生きなければならない。ただし、ここでいう青年らしい夢とは、立身出世を夢みる明治の書生たちの夢ではなく、社会全体を幸福にする体制への夢である。」

「社会の特に下層のために尽すことだと思う。そのことが、ひいては日本のレベルアップにつながるから。しかし、具体的にどうすればよいかということまでは考えたことがない。教えてもらいたい事柄である。」

第5の流れは、「**前衛的性格**」をもつ人生観で**社会主義体制**への指向をかなりはっきりと含むものである。例えば、

「身分が保障された政治体制で、労働者や貧乏人が保護され、貧乏から脱体し、世の中全体が富による差別がなく、身分、家柄、学歴などに差別されない生活ができ、国民全体が一体と

なり、きやすく語りあえるような生き方が世の中で価値ある生き方だと思う。」

「アメリカ帝国主義を打ち倒し、日本の独占資本家と反動主義者を壊滅し、すべての者が平和にくらせる国家を作る事。」

社会党支持の男子では、第1の個人的道徳律を強識するものが特に多いのが目立った。第4第5の流れに属するものは10%弱であった。

社会党(女)

ここでも人生観の主流は、**個人的道徳律**を強調するものである。即ち、

「信念をつらぬく」

「人格完成、向上」

「ある一つのことによって一生懸命になるのは美しく立派」等々である。つらぬくべき信念や目標が具体的でなく、一般的、抽象的であるのも特徴的である。

第2の流れとしては、「**市民的性格**」を多分にもつ人生観がみられる。例えば、

「現在のような複雑な社会機構においては、スペシャリストとして、自分の専門分野で、社会の進歩のために、かせられた役割をはたす。」

「現在様々な分野の職業があるが、どの職についている人も、直接、間接に政治というものに大いに関係があるものである。一国の国民である以上は、その社会の一構成員として、現在の社会状況に関心をもつべきであり、又、そうすることが一人一人の義務である。現在の社会の本質をつかみ、物事の善悪、正不正を過去、現在、未来の関連において正しく判断できるような人間こそ、真の人間、社会の構成員としての人間の生き方である。他人の判断、他人の思想を甘愛してはならない。自分の人生を生きること、それが最も大切で、本質的なことである。」

社会党系(男)

このグループで目立つことは、「わからない」「よく考えたことがない」「白紙のまま」のものがかなりあったことである。

さて、人生観の主流は、やはり、**個人的な道徳律**を強調するものであるが、「社会に害にならぬよう」という前提をつけながら、貫くべき信念は、「自分のやりたいこと」「自分が満足するもの」というように観念的、独断的なものが多いのが特徴である。例えば、

「問に答えられるような生き方はまだ、ほとんど考えていない。ただ、とにかく生きなければならぬと思う。そして、自分の信念に従って、自分が満足すれば、それでよいと思う。」

「社会的にゆるされるかぎり、自分のやりたいことをすること。」

第2の流れは「**小市民的**」「**大众的**」性格をもつ人生観である。即ち、

「余り立身出世にばかり夢中にならずに、富みもせず、窮しもせず平凡な家庭をおくこと。」にその典型がみられる。

第3の流れは、「**市民的性格**」をもつ人生観である。一例をあげれば、

「他人と協調して生活し、しかも自分を失わないように生きること。社会的に価値を認められる人間、社会の必要とする人間、つまり仕事の出来る人間というか、自分の立場(自分の仕

事)を立派にやりとげる人間だと思う。」

第4の流れは、**社会への貢献**を強調する人生観で、次の例がある。

「貧富や社会的地位は問題ではなく、自己の行動に責任を持ち、自己の良心、あるいは社会的常識に基づく行動をし、他人の為に自己をすてる事が出来るような生き方。」

社会党系(女)

社会党系の男子と同じく、その主流は、**個人的な道徳律**を強調する人生観で観念的、独断的な信念をもつものがかなりあった。

「自己に忠実に」「主体性をもって生きる」

「現実がいかにあろうと、自分というものを見失うことなく、自分のいただいている目標に一步一步努力していくこと。」

第2の流れは、「**小市民的**」**大衆的**」性格をもつ人生観である。例えば、

「人の迷惑にならない程度に自分が楽しめる生活をする事。その為に苦勞をするのも楽しみの一つ。資本主義である以上、生活安定のための苦勞はすべて楽しみとおもう。」

「社会のかたすみでもよい。常に、その中の1人という自覚をもって、又、その環境に甘んじることもなく、自分の心に誠実に生き、研究(仕事でもよい)に励むこと。」

第3には**社会への貢献**を強調する人生観がある。一例をあげれば、

「第1に自分の任務、職分といったものを自覚している事。それを全うする心構えで日々をすごしていながら、狭い視野内でのみ行動をしないで、社会の福祉の為に、社会の動きを観察し、正義を正義、悪を悪として、正義を実践する生き方。」

共 産 党

ここでは3つの人生観の類型が抽出された。主要な流れは「**前衛的性格**」をはっきりもつ人生観である。次にその数例をあげる。

「人民とともに生活し考えること。決して私は教条的にいつているのではない。私の専門した道を生かすこともできるのは、やはり、その中へ入って始めてである。私はプチブルの子であるが、それを克服して行くことが、私の課題である。更にもう一つ、常に反体制であること体制にべったりしないこと。」

「現在の世の中をどのように変革していったらいいのかを、歴史的に、又、現在の状態を分析する中で、ハッキリと知り、そのことを実践する生き方。」「人間らしい生き方とは、すなわち、自己の良心に忠実に生きることである。自分の今までの生活の中には、わからなかった大きな自分の生き方を学んだ。それは自分を愛し、他人はすべてを愛することである。自分が次の世代を担う青年として、社会全体に対する責任感は大い。このような学び家で勉強できるのは、大なる幸せである。自分は自分の今まで生活してきた中で、数多くの矛盾を知った。我々が社会に出るのは、ただ適応しさえすればよいのではない。少しでもよりよい社会へ変革してゆかねばならない。この時に現在の社会情勢は一途に戦争と売国の反動化をたどっており、もはや、あらゆる階層の人々がたちあがらなければ、平和も民主主義も生活も守られなくなって

きている。その中で大学における学生への圧迫、教職員への圧迫というものもはげしくなっている。教授会の権限縮小、教官研究費の不足などあげればきりが無い。丁度、日本が天皇中心をモットーとして大太平洋戦争に突入していったころ、やはり、大学に対する攻撃はいち早かったのである。自分のためにも、又、みんなのためにも、現在を変革してゆく立場に立って少しでも、人民のために、みんなと共に努力することが立派な生き方だと思う。」

第2の流れは、はっきりした「前衛的性格」はもたないが、**社会への貢献、社会の改良**を一般的に強調する人生観である。例えば、

「一人がみんなのために、みんなが一人のためになるような社会を作るように生きることである。」

「人のために尽くす。個人だけという考えに入りがちであるが、皆と協力してやること。」などである。

第3の流れは、**個人的な道徳律**を強調する人生観である。概して、一般的、抽象的であるが、他人、社会、或いは権力などを意識しながら、自己の生き方を考えようとしているところが特徴的である。例えば「自分の理想とするところの物を追求することであろう。目標に向かって一步一步進む時、充実感というもので、体中が熱くなるのではないだろうか。この体中が熱くなる、このような生き方がりっぱな生き方だと思う。」

「自己に対して忠実に生きること。常に反省をし、自分にきびしく生きる。」

「権力にまけないで、自分で自分の真の生き方をみつけ出して生きていく、そのような生き方。」

「個人の生れ出た環境というものは、絶対に動かせないものである。しかし、これに、うもれ、甘んじて何の自己の企てなく生きるのは最もおろかであろう。我々個人には無限の道が開かれており、すべての事柄に興味と実践力をもって接し、何事にも自分というものを力いっぱいぶっつけてみる人間が最もすばらしいものと思う。また、人間お互いを心の底から信頼し、他人の言動のすべてを寛容の心で認め、なお、自らをあざむくことのない生活を送ること。ここには、他人の中に自己をはっきりと認めみつめるという非常に難しい修養を要するのだが、個人の謙遜な気持を捨てないでいるなら達成できるものと信じている。従って、よし、資本主義体制の中であって資本家に、又は、労働者になろうとも、これは人間の着ている衣にしかすぎないのだから、さらにいえば、きたない衣をまとっている方が、自分の身体を見つめることが、より多く許されているといえるのだから、とにかく人間的な向上をはかるよう、常に自己をきびしくみつめ、周囲に甘んじることなく実行していく人生を最も期待するものである。」

共産党系

大多数が、**個人的な道徳律**を強調する人生観であるが、他の人々、社会環境を考慮に入れ独断的になるのを避けようとしているのが特徴である。これは共産党支持の第3の流れの人生観と類似のパターンである。例えば、

「自分の理想を全うしていく人。（正しい意味での）自分の信念をまげない人。」

「他人をよく知り、その言動を尊重し、自分もまた、知ってもらい、互いに協力する事。」

「自分の事だけを考えず、常に他人の事も考え、物事に対して客観的態度で考察し、生きていく。」

「自分の考えているままを、周囲の人から余り影響を受けず（自分の考えを固守するというのではなくて、不安定でないということ、ちゃんと自分の考えが確立していること）推し進めて生きてゆくこと。自分で考えて、自分の考えが、間違っていると感じたら訂正するのも、また重要なことである。」

第2の流れは、明確にはないが「前衛的」指向をもった道徳律を強調する人生観で、共産党支持にみられる第3の流れから、第2の流れへ、或いは第1の流れへと発展していく過程での中間的な類型であろうと思われる。その例としては、

「社会の動勢にたとえ反することであっても、正しいと信じたことが実践出来る人間の生き方。」

「とにかく一生懸命生きてゆくことではないだろうか。自分の生活をよりよいものにしてゆく。今以上の生活をするという気構えをもって常に精進することだと思う。自分によって、人が害されることがあっては決してならないが、他人によって自分が害されることがあっても、それを更に自分の成長のふみ台として、生きてゆける、そういうたくましい人間性を私はつちかいたい。私は教師になるのだが、真実を常に教えうる人間になりたいと思う。マイホーム主義、享楽を求めたいはい主義、私はそういう生き方はいむべきものだと思う。」

支持政党なし

一般的かつ抽象的な個人の道徳律を強調する人生観が主流である。即ち、

「まじめに、真剣に生きる。」

「目標に向って、懸命に進む。」

「良心的であれ。」

「真に人間的な生き方をする人。」などである。

第2の流れは、個人的道徳律とともに、社会の改良を指向する人生観である。例えば、

「1）自己の考え、主張を貫き通し、どんな障害にもへこたれぬこと。2）社会の矛盾に目を向け、少しでも改革しようとの努力をおしまぬ事。3）政治への関心を常に有し、その社会の矛盾がどこから来るのか、それはどうしてなのかを追求、確認し、2）に帰る事。」

「自分の現在おかれている状態をよく認識し現在自分のなすべき唯一つの事を一筋に果たしてゆく一方、今の私は、もう少し自分の生活している社会、国家を理解し、自分なりの主義をもち、国民全体のすみよい国になる事を主張する。」

第3の流れは、一般的に社会への貢献を強調する人生観である。イデオロギー的には中立的であるのが特徴である。例としては、

「自分のことのみ考えて生活するのではなく、世の中のみんがよく生活できる様に、個人のために、社会のために働くこと。」

「自己満足の幸福ではなしに、それが創造性に結びつくものである事。小説家ならば、小説を書き、音楽家ならば、作曲や、人の心に感情を生じさせ、画家ならば絵を書きあげる仕事。他になんでもよい。出来上がったものをさらによりよくしていく事も、又、大きな仕事であると思う。すなわち、教師としての子供をよりりっばに成長するのを助ける職業とか、医者としての生きものをより健康に生き長らえさせるか、いろいろあると思う。創造性に結びつく職業は何でもよいと思う。だから我々は、考えれば、健康人はだれもそういう職業についているのであるから、人それぞれ、ほこって良い存在だと思う。しかし、現在の世の中で価値あるとは、より高い創造性を持った人達の事をいうと思う。自己満足のみにとどまらないで、どれだけ多くの人達を幸福にする可能性があるかという事ではないだろうか。だれもが、偉人になれるわけではないが、シュバイツァーなどは良い例ではないかと思う。」

IV 総 括

これまでの分析で見出された人生観の類型をまとめると次のようになる。

- a) 「個人的道徳律」を強調するもの。
- b) 「小市民的」「大衆的」性格をもつもの。
- c) 「庶民的」性格をもつもの。
- d) 「市民的」性格をもつもの。
- e) 「社会への貢献」を強調するもの。
- f) 「社会改良」を強調するもの。
- g) 「前衛的」性格をもつもの。

更に、強いて分類すれば、a) の類型に含まれるが、多義的な性格を持つため便宜的に命名したものとして、h) 巨人主義、i) 理想主義、j) 悲観主義、k) 折衷主義、l) 人道主義がある。

政党支持別に見出された人生観のパターンを、上記の記号を用いて、まとめたものが、「表2」である。(hからlまでは省略)

〔表2〕 支持政党別にみた人生観の類型

支持政党	性別	人生観の類型	支持政党	性別	人生観の類型
自 民 党	男	a, b, c	社 会 党	男	a, b, f, g, a-e
	女	a, b		女	a, d
自 民 党 系	男	a, b	社 会 党 系	男	a, b, d, e
	女	a, b, a-b, b-d, e		女	a, b, e
民 社 党		a, a-b,	共 産 党		a, e-f, g
民 社 党 系		a, a-b, e	共 産 党 系		a, a-g
公明党(系)		a, b, e, a-e	支持政党なし		a, e, f

(註) —は共存を表わす

〔表2〕から、一般的に政党支持別による人生観のパターンをまとめあげることは、あまりにも性急であろう。なぜなら、サンプルが一大学の学生だけであり、パターンが完全に尽くされているとはいえないし、量的な分析も行なわれていないからである。

従って、一大学の学生だけのサンプルによる質的分析という条件で、〔表2〕に現われている主要な特徴を列挙すれば次のようになる。

- 1) 個人的道徳律を強調する人生観は、支持政党に関係なく、共通因子としてどの政党(系)にもみられる。しかしながら、同じ道徳律でもかなりニュアンスの違いがみられ「独断的なもの」「抽象的一般的なもの」から、「他人、社会を考慮にいれて考えているもの」「前衛的指向をもつもの」までである。しかも、道徳律そのものは、イデオロギー的に曖昧であるので、社会的性格としては、日高(1960)の類型には分類が困難である。しかし、いくつかの例にも見られたように、道徳律だけの人生観は、いずれ、b) から g) までの人生観にむすびついて、社会的性格を帯びるように発達していくと考えられる。
- 2) 「小市民的」「大衆的」性格をもつ人生観もかなり一般的にみられるが、「共産党(系)」、「支持政党なし」「社会党(女)」だけには、みられないのが特徴である。
- 3) 「庶民的」性格をもつ人生観「市民的」性格をもつ人生観は、わずかで、自民党(系)、社会党(系)に散見されるのみであった。
- 4) 「社会への貢献」を強調する人生観は自民党、民社党にはないが、その他には、一般的にみられる。
- 5) 「社会改良」を強調する人生観は、社会党(男)、共産党(系)、支持政党なし、にみられるだけである。
- 6) 「前衛的」性格をもつ人生観は、わずかに共産党(系)と社会党(男)にみられるのみであった。
- 7) h, i, j, k, l, の人生観については、a, の道徳律と同じく、いずれ、はっきりと社会的性格を帯びてくると考えられるが、ここでは自民党(系)、民社党(系)にだけみられるということを指摘するにとどめる。
- 8) 一般的に、低学年及び、始めに支持政党なしと回答した58%のサンプルには、「確立した考えなし」「考えたことがない」「わからない」「白紙」の者が多かった。このことから、政党支持と社会的性格をもった人生観との相関関係が示唆されるであろう。
- 9) 山本、久松(1965)によれば、支持政党別に「保守——革新」の態度尺度上の位置を調べたところ、(自民党)、(民社党)——(支持政党なし)、(社会党系)——(社会党)——(共産党)(N.L)(註、N.Lは新左翼。——は1%レベルで統計的に有意な差があることを示す)のようであった。このような「保守——革新」の傾向は、本調査でも一般的に認められた。即ち、自民党、民社党、に於ては、「個人的道徳律」と「小市民的」「大衆的」性格を強調する類型が支配的で、更に「庶民的」性格をもつものまで含まれているのに対し、社会党系、支持政党なし、に至ると、「社会への貢献」を強調するものがはっきり現われ、更に、社会党へ移るに

従って、「社会改良」を強調するもの、「前衛的指向」をもつものまで現われる。更に「共産党」に至ると、「小市民的」「大衆的」性格を強調するものはなくなり、「前衛的」性格を強調するものが支配的となっている。

10) 公明党(系)にみられる人生観の類型は、自民党系(女)、民社党系、社会党系(女)と類似していることがわかる。

11) 男女の相違をみるため、自民党(系)と社会党(系)については、男女別々に類型を探したが、特に目立った相違があるのは、社会党支持の男女である。即ち、女子に於ては、個人的道徳律を強調するもの他には、「市民的」性格をもつ人生観がみられるだけであるのに対して、男子に於ては、「大衆的」性格をもつものから、「社会への貢献」「社会改良」を強調するもの、更には「前衛的」性格をもつものまで、非常に類型が多様である。

また、自民党(系)では、自民党(男)に「庶民的」性格類型がみられるのに対し、自民党系(女)には「市民的」性格類型、「社会への貢献」を強調する性格類型がみられるのが興味ある現象である。

12) 各党における、はっきりした支持者と支持系の者の間には、ほぼ類似のパターンが見られるが、自民党(系)、民社党(系)では(系)に「社会への貢献」を強調するものがあるのが特徴である。

以上、質的な分析による概括を基礎として、今後の課題としては、種々の年令層、職業層への探索と社会的性格類型を用いての数量的分析が必要である。また、従来の人生観研究(例えば、岡本(1955))にみられるさまざまな類型と社会的性格類型との関係を明らかにしていくことも重要である。更に、各類型の相互浸透、移行の契機を探究することも重要な課題である。

参 考 文 献

- 鮑戸 弘 1965 政治的態度の構造に関する研究, 日本心理学会第29回大会発表論文集
 日高六郎 1960 現代イデオロギー 勁草書房
 池内 一 1960 政治意識に対する社会心理学的接近——政党支持態度の分析を中心として, 年報社会心理学, 創刊号 勁草書房
 加留部清 1966 政治意識の形成と変化 日本心理学会第30回大会発表論文集
 牧田稔, 林知己夫, 斉藤定良 1959 政党支持変化の分析的研究, 心理学研究, 29
 三宅一郎 木下富雄, 間場寿一 1967 異なるレベルの選挙における投票行動の研究, 創文社
 岡本重雄 1955 人生観の確立, 青年心理学講座 I 金子書房
 塩原 勉 1962 戦後日本の社会運動, 社会学評論13, 1
 山本俊磨・久松昌範 1965 大学生の政治意識——その支持政党を指標とする分析, 日本社会心理学会第6回大会研究発表プリント集